

## いじめアンケートにおける匿名性に影響を与える要因についての分析（1）

—記名と匿名、社会的身分による違いに注目して—

岡田 圭二（愛知大学経済学部 教授）

要約：本研究は、岡田（2013）に対して、短大生を被調査者としているために、結果の一般性に問題があるという批判を出発点として、中学生、高校生、専門学校生、短大生、大学生を被調査者として、社会的身分やその状況（記名式と匿名式、回収方法など）がいじめアンケートの回答に及ぼす影響を検討した。オンラインアンケートを用いて259人から回答を得た。その結果、社会的身分によっていじめアンケートへの意識に差があること、匿名式がいじめアンケートが答えやすさを促進する方向で影響している、いじめアンケートの回収方法が答えやすさや匿名性への不安に影響することを明らかにした。また学校の先生への信頼性の高さがいじめアンケートを正直に答えることに影響することを確認した。

### 1. はじめに

現在の学校の環境においていじめの問題というのは重要な対策であり、その実態の認識が求められる。いじめの発生状況とか実情を知るための一つの手段としていじめに関するアンケート（ここではいじめアンケートとする）が行われている。このいじめアンケートの実施について様々な工夫であるとか注意点があるだろう。このいじめアンケートの実施に関して、様々な工夫が現場でおこなわれているだろうし、実際にその工夫についての提唱がなされている論文もある（柳田・金丸、

2019）。

岡田（2013）によればいじめアンケートにおける匿名性がいじめアンケートの回答であるとか、その有効性に対して影響することが指摘されている。例えば、その指摘の一つとして、先生や学校に対する信頼性がいじめアンケートの回答の有効性に影響があることが指摘された。その他にも、学校や先生に対する信頼性が高いとアンケートの回答が正直なものになるという結果も報告されている。

岡田（2013）の研究は、短大生に関する研究であり、その内容はそのまま中学生や高校生が現時点でいじめアンケートに感じているものではない。短大生による回顧的な回答が実際に短大生が中学生や高校生であったときに感じたいじめアンケートに関する意識や行動とある程度の乖離があることは原理的に否定できない。しかし、いじめアンケートの回答者に関する実態の解明に役立たないということはないだろう。

ただし、このような批判がよせられたのは事実であり、さらにその批判にもたしかに合理性と根拠はあるため、今回の調査では、中学生、高校生、専門学校生に調査対象を広げた。さらに大学生も調査対象とした。このことにより、次の2点について明らかになると思われる。第一に調査結果の外的妥当性の拡大である。前回の調査で明らかになった点が、今回の調査でも同じように現れるのであ

ろうか。または社会的身分によっていじめアンケートに感じるものが異なれば、その違いはどこに起因するのか検討の可能性、必要性が示唆される。

## 2. 方法

### 2-1：被調査者

本調査の参加者は合計259人であった。その内訳は男性82人、女性176人、未回答1人であった。社会的身分としては中学生6人、高校生5人、専門学校生1人、短大生47人、大学生200人であった。平均年齢は19.06歳であった。年齢の分布をみると、18歳が77人、19歳が85人、20歳が47人となっており、最頻値は19歳である。なお女性の平均年齢は、18.99歳、男性の平均年齢は19.12歳であった。この計算時に被調査者の特定を避けるために、25歳以上の年齢は25歳以上として回答させ、平均年齢での計算では25歳として計算した。これは大学の授業を通じてアンケートを募集したため、社会的身分、性別、年齢を正確に回答してもらうと、個人が特定される可能性が高くなることを避けるためである。なお25歳以上と回答があったのは259人中2人であった。2人という数字は、被調査者の1%以下であり、真の平均年齢との乖離に対する影響は軽微であろう。これらの平均値や分布から、本調査は概ね18歳、19歳を中心とした調査といえるだろう。また中学生、高校生、専門学校生の回答は10人以下であり、その結果の解釈において、得られている数値の代表性についてあきらかに注意が必要である。

またアンケート実施中に質問項目の追加を

行ったため、アンケート開始から最初の105人は、記名式、匿名式のアンケートに関わる質問の一部を回答していない。

### 2-2：日時

2021年7月から8月中旬において行われた。愛知大学の学生が多くの被調査者であることを考えると、試験効果、すなわち試験期間中、成績評価期間中にアンケートが行われると研究目的に対して迎合的な結果が出現しやすい現象が現れる可能性は高いといえる点は結果の解釈、評価において注意すべきである。しかしこの点についての対策の一環として、アンケートの依頼、説明において、結果の分析は匿名で行われること、成績評価には関係ないことを強調しておいた。

### 2-3：質問項目

質問項目は、大きく分けて、5つに分けられる。第1が被調査者のプロフィールに関わる質問項目群であった。第2がいじめアンケートに関する質問項目群であった。第3がいじめアンケートの回収方法、いじめアンケートが匿名式か記名式か等に関する質問項目群であった。第4がいじめ自体に関する質問項目であった。第5がいじめやいじめアンケートに関する自由記述であった。なお本論文では主にいじめアンケートの匿名性、被調査者の社会的身分による回答の違いについて報告、検討した。その他の項目に関しては、後続する論文等において報告にする予定である。

## 2-4: 方法

Google フォームを用いたオンラインアンケートによる方法を用いた。被調査者の参加呼びかけは授業を用いて行われた。さらにその授業の受講生に知り合いの中高生、専門学校生、大学生、短大生等のうち、このアンケートに協力してくれそうな人がいたら、アンケートページの URL を伝えて、趣旨を理解していただいた上で参加してもらうよう依頼した。なおアンケートに協力することによる成績評価への加点は行っていないし、アンケート参加は任意であり、回答途中であっても止めることができることはアンケートの説明文および参加への呼びかけ時に伝えてあった。またアンケートの回答は匿名で処理されることも伝えてあった。

## 3. 結果と考察

### 3-1. 社会的身分といじめアンケートに回答した回数

まず社会的身分ごとのいじめアンケートの

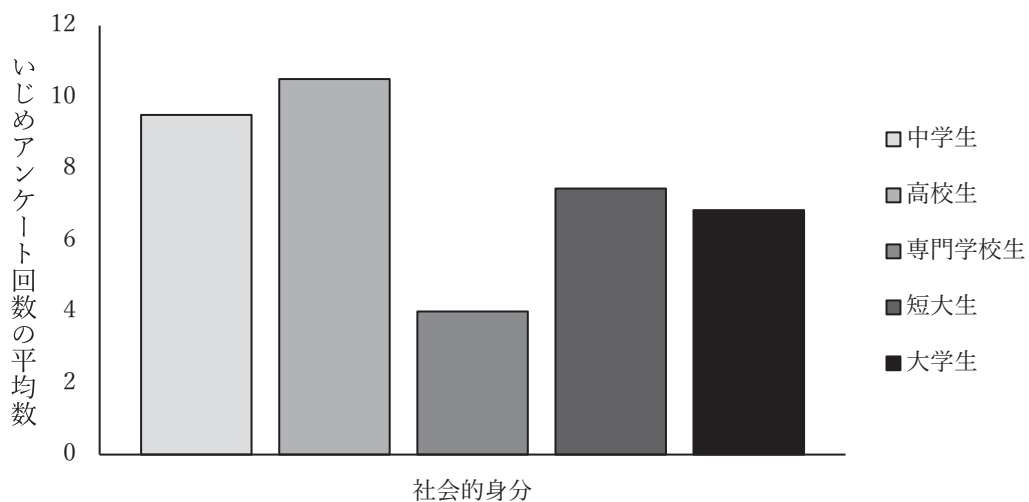


図1. 社会的身分といじめアンケート回答数

回答回数についての結果が図1である。このグラフの読み解きにおいて注意すべきは、あくまでの被調査者の記憶に基づいた回答であり、実際にいじめアンケートを回答した数自体ではないことである。社会的身分と回答数の関係において、高校生の平均回答数が多く、専門学校生、短大生、大学生が少ない。

### 3-2. 記名式と匿名式

これまで受けたいじめアンケートのうち、記名式と匿名式のどちらが多いかについての回答が表1の通りであった。

次に記名式と匿名式では本当のことをこたえるについての意識についての関係が表2である。表2から明らかに匿名式はいじめアン

表1. いじめアンケートの記名と匿名について

| アンケートの種類    | 回答数 |
|-------------|-----|
| 記名式         | 22  |
| 匿名式         | 111 |
| どちらが多い分からない | 12  |

表2. 記名と匿名における本当のことをこたえる程度

| アンケートの種類 | 中学生 | 高校生 | 専門学校生 | 短大生 | 大学生 | 全体の平均評定値 |
|----------|-----|-----|-------|-----|-----|----------|
| 記名式      | 4.0 | 3.8 | 4.0   | 2.4 | 3.2 | 3.2      |
| 匿名式      | 4.3 | 3.7 | 5.0   | 3.8 | 4.5 | 4.4      |

ケートの方が全体の評定値の平均が高い。いじめアンケートの目的が、いじめの実情についての調査であるならば匿名性のいじめアンケートの実施が妥当であろうと本調査の結果はいえる。社会的身分ごとの平均評定値を見ると、高校生を除いては、いずれも匿名式の方が本当のことを答えるという評定値が高い。すなわち、記名式より匿名式の方がいじめに関する実情を明らかにする可能性が高いと示唆される。ただし高校生に関してのみは差はほとんどない。中学生も差は小さいといえるだろう。専門学校生、短大生、大学生の評価に大きな差があり、中高校生の差が小さいことの原因は現段階では明らかではない。

### 3-3. いじめアンケートの回収方法について

いじめアンケートの匿名性を高める方法として、回答されたいじめアンケートをどのように回収するかが考えられる。本研究の調査では、その回収方法について例示して、それぞれの回収方法を体験したことがあるかどうかを尋ねた。その結果が表3である。さらに回収の方法について、表4に回答場所、表5に回収方法、表6に回答用紙を袋に入れたかどうかについて集計した。

回答場所はクラスが多く次いで自宅であった。回収方法は、教室の後ろから前へ回す方

法が最も多く、次いで先生に渡す、さらにそれについて回答箱（袋）に入れると分類できるタイプの回収方法の数が多かった。いじめアンケートの匿名性という観点からすると、回収方法が後ろから前に回す方法では正確な調査となりうるのであろうか。そこで次に、回収方法といじめアンケートに正直に答えにくいの関係についてクロス集計を試みた。表7がその表である。この表において、オンラインアンケートの方法が、「本当のことがこたえにくい」、「いじめアンケートに回答が匿名であることに不安がある」が共に他の方法に比べて低目に出ていることが分かる。

### 3-4. 社会的身分といじめアンケートへの評価（意識）

社会的身分といじめアンケートへの評価や意識の関係のアンケート結果を表したのが図2である。専門学校生のデータは、回答者が1名であるために、読み取りに注意が必要である。それを念頭において、全体平均と各社会的身分の平均評定値の差の大小や社会的身分間の差の大小についてみていく。すると「正直に答えにくい」という点については、中学生の回答が低く、中学生はわりに正直に答えているようである。「自分の回答は誰にもわからない」の評価も中学生の評価は低く、いじめアンケートに匿名性があるゆ

表3. いじめアンケートの回収方法

| 質問   | 回答数 | 回答場所 | 回収方法       | 回答を袋に入れる |
|--|-----|------|------------|----------|
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、回答箱へ回答用紙を個々人が入れる                | 19  | クラス  | 回答箱（袋）へ入れる |          |
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、回答用紙を先生に直接に渡す                   | 58  | クラス  | 先生に渡す      |          |
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、茶封筒に解答用紙を入れて、教卓の上の大きな封筒に個々人が入れる | 1   | クラス  | 回答箱（袋）へ入れる | 入れる      |
| クラスのホームルームの時間に封筒に入ったアンケート用紙が配られ、回答後は封筒に入れ先生に直接渡す           | 1   | クラス  | 先生に渡す      | 入れる      |
| クラスのホームルーム時間に回答し、教師が直接回って回収する                              | 1   | クラス  | 先生に渡す      |          |
| クラスのホールルームの時間にアンケート用紙へ回答して、後ろから前に回答用紙を回して回収する              | 82  | クラス  | 後ろから回す     |          |
| クラスホームルームの時間に回答して先生が回収して回る                                 | 1   | クラス  | 先生に渡す      |          |
| スマホやpcを使って、ネット上のアンケートに答える                                  | 2   | その他  | オンライン      |          |
| ホームルーム時間に回答をして、先生が書けた人の分から、回収しに来てくれた                       | 1   | クラス  | 先生に渡す      |          |
| 解答用紙を封筒に入れ、封をして校長先生や教頭先生あたりが確認していたらしい                      | 1   | その他  |            | 入れる      |
| 自宅等で回答して、回答箱へ回答用紙を個々人が入れる                                  | 1   | 自宅   | 回答箱（袋）へ入れる |          |
| 自宅等で回答して、回答用紙を先生に直接に渡す                                     | 9   | 自宅   | 先生に渡す      |          |
| 自宅等で回答して、封筒に回答用紙を入れて直接先生に提出                                | 1   | 自宅   | 先生に渡す      | 入れる      |
| 自宅等で回答して、封筒に回答用紙入れて学校へ郵送する                                 | 2   | 自宅   | 郵送         | 入れる      |
| 先生やカウンセラー等が一人一人面談して、質問に答える                                 | 1   | 面談   | 面談         |          |

表4. いじめアンケートの回答場所について

| 回答場所            | 回答数 |
|-----------------|-----|
| クラス             | 164 |
| その他（オンラインアンケート） | 2   |
| 自宅              | 13  |
| 面談              | 1   |
| 未回答             | 1   |
| 合計              | 181 |

表5. いじめアンケートの回収方法について

| 回収方法       | 回答数 |
|------------|-----|
| オンラインアンケート | 2   |
| 回答箱（袋）へ入れる | 21  |
| 後ろから回す     | 82  |
| 先生に渡す      | 72  |
| 面談         | 1   |
| 郵送         | 2   |
| 未回答        | 1   |
| 合計         | 181 |

えに正直に答えるではなく、あくまでも正直に答えるものであると考えていることが覗える。次に高校生についてみていくと、「無駄だ」、「先生には回答者が分かる」、「本当のこ

とは分からない」といった質問項目に対する平均評定値が高く、さらに「正直に答えてきた」の評定値が低いといった点からいじめアンケートに対してネガティブな姿勢や評価をしていることが分かる。なぜ中学生が正直な反応であり、高校生がネガティブなのかについての理由は本研究のアンケートからは覗えない。また本研究の中心的なテーマである匿名性に関する質問である「回答が匿名であることに不安がある」は総じて低めの平均評定値であり、全体的にみても、いじめアン

表6. いじめアンケートの回答用紙を袋に入れて回収するかどうかについて

| 回答用紙を袋に入れるか | 回答数 |
|-------------|-----|
| 入れない        | 172 |
| 入れる         | 3   |
| その他         | 5   |
| 未回答         | 1   |
| 総計          | 181 |

表7. 回答方法・回収方法といじめアンケートへの意識

|   | いじめアンケートに本当のことは答えられない | いじめアンケートに回答が匿名であることに不安がある |
|---|-----------------------|---------------------------|
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、回答箱へ回答用紙を個人が入れる                | 2.2                   | 1.8                       |
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、回答用紙を先生に直接に渡す                  | 2.2                   | 1.9                       |
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、茶封筒に解答用紙を入れて、教卓の上の大きな封筒に個人が入れる | 4.0                   | 3.0                       |
| クラスのホームルームの時間に封筒に入ったアンケート用紙が配られ、回答後は封筒に入れ先生に直接渡す          | 3.0                   | 3.0                       |
| クラスのホームルーム時間に回答し、教師が直接回って回収する                             | 4.0                   | 1.0                       |
| クラスのホームルームの時間にアンケート用紙へ回答して、後ろから前に回答用紙を回して回収する             | 2.6                   | 2.0                       |
| クラスホームルームの時間に回答して先生が回収して回る                                | 5.0                   | 1.0                       |
| スマホやpcを使って、ネット上のアンケートに答える                                 | 1.0                   | 2.0                       |
| ホームルーム時間に回答をして、先生が書いた人の分から、回収しに来てくれた                      | 2.0                   | 1.0                       |
| 解答用紙を封筒位入れ、封をして校長先生や教頭先生あたりが確認していたらしい                     | 2.0                   | 4.0                       |
| 自宅等で回答して、回答箱へ回答用紙を個人が入れる                                  | 2.0                   | 4.0                       |
| 自宅等で回答して、回答用紙を先生に直接に渡す                                    | 3.3                   | 1.2                       |
| 自宅等で回答して、封筒に回答用紙を入れて直接先生に提出                               | 2.0                   | 2.0                       |
| 自宅等で回答して、封筒に回答用紙入れて学校へ郵送する                                | 1.5                   | 2.0                       |
| 先生やカウンセラー等が一人一人面談して、質問に答える                                | 2.0                   | 3.0                       |

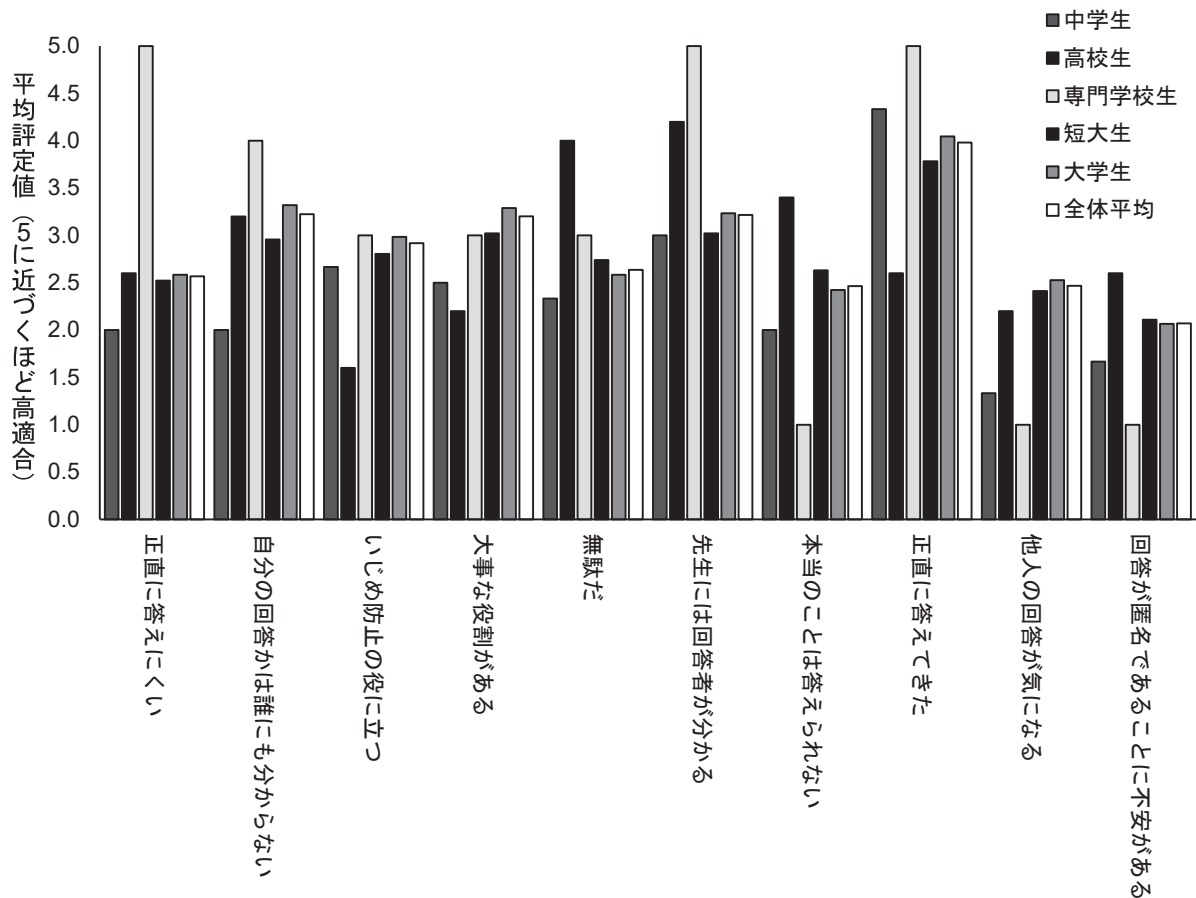


図2. 社会的身分といじめアンケートへの評価（意識）

アンケートの匿名性について不安は感じていないと読み取れるだろう。

### 3-5 信頼性といじめアンケートへの意識

学校へのポジティブな感情や先生への信頼性はいじめアンケートの回答にどのような影響を与えているのかをみたのが図3、図4、図5である。図3では学校の先生を信頼しているほど、いじめアンケートに正直に答えたという平均評定値が高くなるパターンが見てとれる。同じく、図4においても学校が好きであるほど、いじめアン

ケートに正直に答えるという同じパターンである。また社会的身分ごとに学校の先生を信頼する程度といじめアンケートに正直に答えた程度を見たのが図6である。専門学校生については人数が少ないためはっきりとしたことは言いかねるが、おおむね図3のパターンと同じと読み取れる。

### 3-6. 総合考察

本調査は、いじめアンケートにおける匿名性が社会的身分により変化するかを一つの目的としている。調査の結果、社会的身分やい

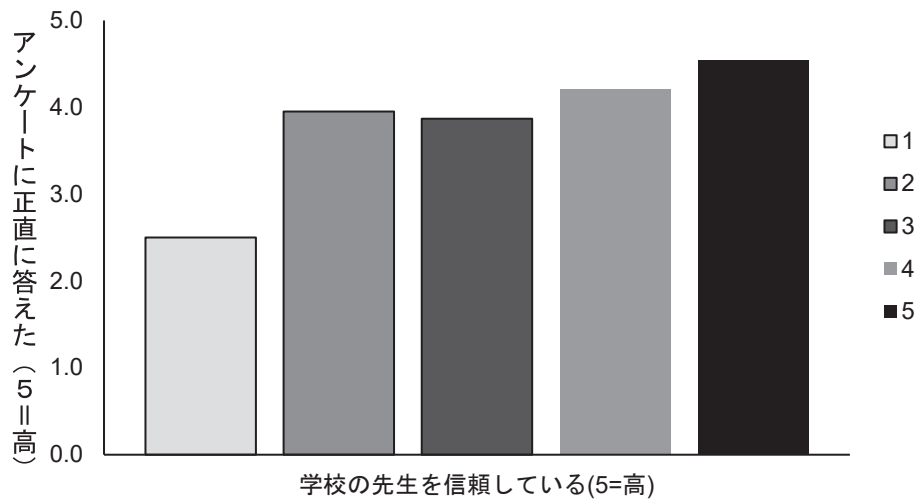


図3. 学校の先生を信頼する程度といじめアンケートに正直に答えた程度

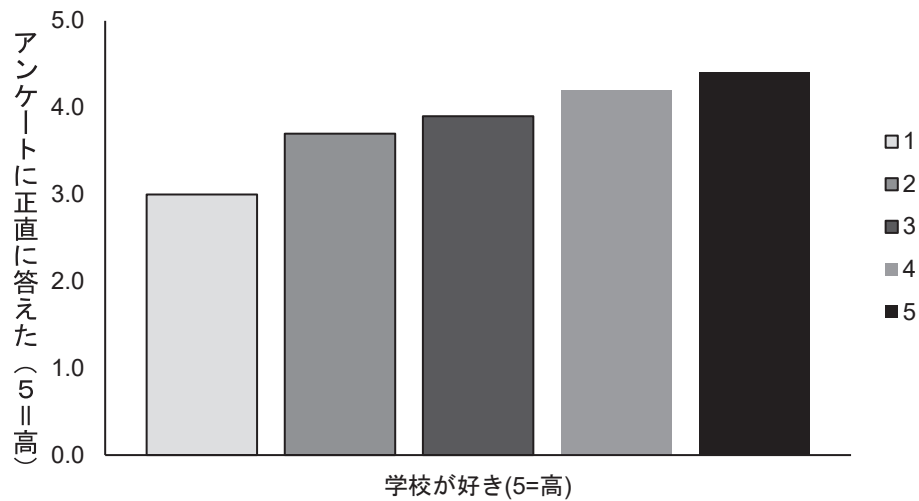


図4. 学校が好きな程度といじめアンケートに正直に答えた程度

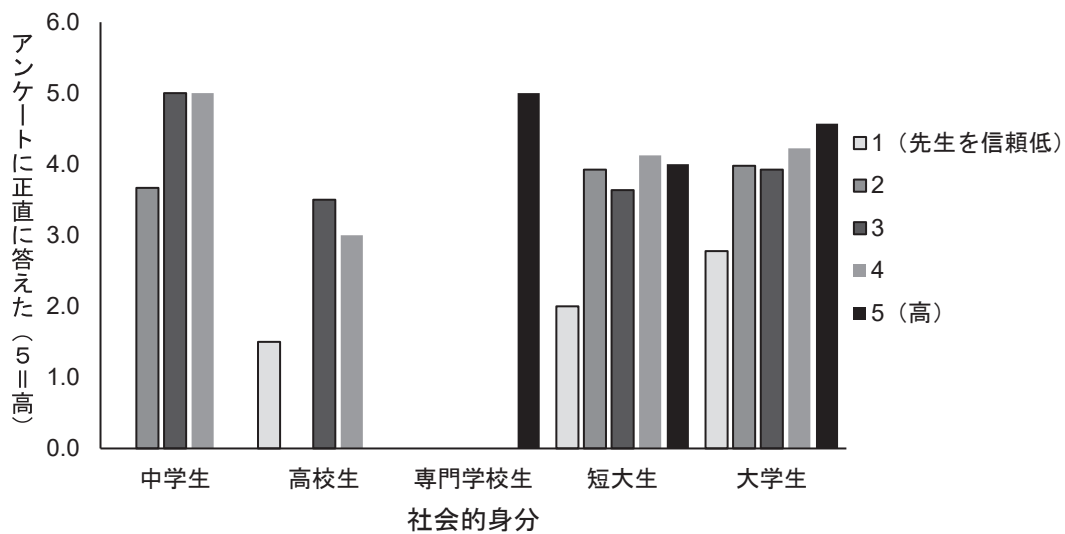


図5. 学校の先生を信頼する程度といじめアンケートに正直に答えた程度



じめアンケートが匿名式であるかなどにより、回答に関わる意識が変化することが分かった。ただし、社会的身分はいわゆる被験者特性である、さらに今回の調査はあくまでもアンケート法であるため、真の原因が何であるかについての検討はさらなる検討が必要であろう。

しかしながら、本調査の結果から示唆されることがある。ひとつにはいじめの実情を明らかにするためには、匿名式のいじめアンケートが効果的であろうことである。さらに中学生、高校生では匿名式、記名式によるいじめアンケートの調査結果の信頼性については差がない可能性が高い。またオンラインアンケートはいじめアンケートの調査結果の信

頼性を損なわない可能性が高いことが示唆された。さらに学校、教員に対する信頼性やポジティブな意識は、いじめアンケートの信頼性を高めることが示唆された。

#### 4. 引用文献

岡田圭二 (2018) 愛知大学の短期大学部生を対象とした匿名性がいじめアンケートの回答行動に与える影響の調査, 愛知大学教職課程研究年報, 2, 83-88.

柳田美智子・金丸隆太 (2019) 中学生のアタッチメント・スタイルといじめ行動の関連 - 新しいいじめアンケート作成の試み -, 茨城大学教育学部紀要 (教育科学), 68, 533-552.